

# 認定

平成24年度決算は、9月9日に決算特別委員会(議長と監査委員を除く12人)を開会し、10会計を審査しました。

9月13日の本会議で採決の結果、全会一致で認定しました。



平成24年度各会計決算額表				
会計項目	歳入(町の収入)	歳出(町の支出)		
一般会計	85億1543万円	80億6837万円		
特別会計	十王財産区	114万円	20万円	
	下水道	5億1917万円	5億444万円	
	国民健康保険	17億547万円	16億108万円	
	農業集落排水	1億3225万円	1億2635万円	
	介護保険	14億8238万円	14億5820万円	
	後期高齢者医療	1億4119万円	1億4049万円	
	企業会計	水道	収益的収支	3億902万円
資本的収支			1276万円	1億4904万円
病院		収益的収支	11億2748万円	11億4979万円
		資本的収支	1456万円	1億5090万円
訪問看護ステーション		収益的収支	2974万円	3134万円
		資本的収支	0	0
合計	139億9059万円	136億5124万円		

※万円未満は端数を整理しています。

## 討論

賛成討論 奥山勝吉議員

平成24年度は第5次白鷹町総合計画に基づく行政の執行において、歳入については自主財源である町税の収納努力を評価します。歳出については、保育園の保育のあり方と支援策について町民との丁寧な対話によりニーズの把握をはかるべきと考えます。また、第6次産業化の推進が依然として停滞しているようです。更なる努力を求めます。

さて、決算書において不用額を見ますと、平成24年度は約2億7958万円となっております。地方自治法では、余裕のありるところから予算のたりないところから予算執行体制を堅持しながら最小限のやりくりを認めております。この不用額を原因別に分析したうえで、予算執行が重要な視点になると考えます。

当町は経常収支比率が増加傾向にあるため、財政の硬直化及び悪化が懸念されており、財政力指数や標準財政規模の低下により財政的な勢いも弱体化している状況にあると言えます。

また、大型プロジェクトの実施による公債費負担が財政に及ぼす影響も心配されます。

将来の行政運営の機動性、柔軟性を確保するため一定額の基金積み立てが必要とされるなか、平成24年度における財政調整基金2億300万円の増額が、7月の豪雨災害に対する予算措置、災害対応の迅速化に大いに貢献したものと考えます。

これらを総合的に評価して賛成討論といたします。

※不用額  
予算額から支出済額と翌年度繰越し額を差し引いた額